『人間と環境』20（2024. 3）
Journal of Human Environmental Studies 20（2024. 3）
ISSN 2185-8365

わが国における催眠療法家に対する意識的・非意識的信頼性
―心理療法家や催眠術師との比較から―

中谷　智美　・福井　義一
今井田　貴裕・堀　孝司
磯和　壮太朗・大浦　真一

<キーワード>
① 催眠　② 社会的信頼性　③ 潜在連合テスト　④ 催眠療法家　⑤ 心理療法家

<論文要旨>
心理療法の専門職であるはずの催眠療法家に対する社会的信頼性は，催眠についての誤解や偏見の流布により，大きく損なわれている可能性がある。本研究では，催眠療法家に対する社会的信頼性の意識的・非意識的側面を，催眠を悪用する催眠術師と，心理の専門職の総称である心理療法家に対するそれと比較した。大学生47名を対象に，各専門家に対する意識的・非意識的信頼性得点をSD法とIATでそれぞれ得た。分析の結果，意識的・非意識的信頼性は，心理療法家＞催眠療法家＞催眠術師の順に有意に高いことが分かった。ただし，催眠療法家に対する非意識的信頼性は，心理療法家と催眠術師と比較した場合に正反対であったことから，中立的であるとは断言できないことが示唆された。催眠療法家に対する社会的信頼性を改善するには，催眠についての正しい情報の周知が必要であることが指摘された。

Conscious and non-conscious aspects of social trust in hypnotherapists, psychotherapists, and hypnotists : A comparative study in Japan

Tomomi NAKATANI, Yoshikazu FUKUI
Takahiro IMAIDA, Takahi HORI
Soutarou ISOWA, Shin-ichi OURA

<Keywords>
①hypnosis　②social trust　③Implicit Association Test　④hypnotherapist
⑤psychotherapist

<Abstract>
Prevalent negative perceptions surrounding hypnosis have considerably eroded the social trust in hypnotherapists, who are professionals expected to offer interpersonal help through hypnosis. This study compared the levels of conscious and non-conscious social trust in hypnotherapists, hypnotists who misuse hypnosis, and psychotherapists (a collective term for professionals offering interpersonal help.) The conscious and non-conscious aspects of social trust in each professional category were assessed among 47 university students. Utilizing the semantic differential method and Implicit Association Test, the conscious and non-conscious scores of social trust in hypnotherapists, psychotherapists, and hypnotists were obtained. The analysis revealed that both conscious and non-conscious scores of social trust were significantly higher for psychotherapists, followed by hypnotherapists and then hypnotists. However, the non-conscious scores of social trust in hypnotherapists were reversed from negative to positive when compared to psychotherapists or hypnotists. This suggests that it cannot be claimed that the trust in hypnotherapists is neutral. Our findings underscore the importance of disseminating accurate information about hypnosis to increase the social trust in hypnotherapists.

わが国における催眠療法家に対する意識的・非意識的信頼性
―心理療法家や催眠術師との比較から―

中谷　智美　・福井　義一
今井田　貴裕・堀　孝司
磯和　壮太朗・大浦　真一

問題

催眠療法が様々な心身の疾患に対して有する治療的効果については，これまでにかなりのエビデンスが蓄積されてきた。メタ分析やシステマティック・レビューによると，特に心的外傷後ストレス障害（例，Rotaru & Rusu, 2016）や抑うつ（例，Milling et al., 2019）のような精神疾患だけでなく，過敏性腸症候群（例，Schaefert et al., 2014）や疼痛（例，Milling et al., 2021）のような身体疾患においても，催眠療法を受けた群は対照群よりもその症状が大きく緩和されることに加えて，その効果が数週間後も持続することが分かっている。こうしたことから，催眠療法は極めて有用な心理療法の一つであると言える。

それにもかかわらず，わが国における催眠療法の活用状況は極めて低調である。わが国では，心理の専門家になるためのトレーニングにおけるカリキュラムに催眠療法は含まれていないばかりか，催眠という語を含む学術論文の刊行もほとんど皆無であり，催眠研究を標榜する学術大会における研究発表数も年々減少の一途を辿っている。そうした状況を反映してか，対人援助の専門家であっても催眠を学ぼうという意欲はおしなべて低い。その背景に，一般に催眠についての誤解や偏見，否定的イメージが蔓延しているせいで，催眠療法や催眠療法家に対する社会的な信頼性が損なわれている可能性が挙げられる。

わが国では，催眠についての誤解や偏見が広く流布している（一柳, 2006）。例えば，催眠は，映画やテレビ番組，漫画，書籍などの様々なコンテンツにおいて，人を操ったり（例，えなこ×さらば森田の猫しか勝たん, 2022; 心野, 2022），他人を眠らせたり（例，ポケットモンスター, 2000）するための手段として描かれることも多い。この中には，若い女性に猥褻な動きをさせる（例，えなこ×さらば森田の猫しか勝たん, 2022）など，被催眠者を性的に見世物にするような演出まで見られる。特に，わが国におけるアダルト・ビデオ作品（以下，AV作品）において，こうした傾向が顕著であると言える。いわゆる「催眠モノ」のAV作品のタイトル（中谷・福井, 2022）や内容紹介文（中谷・福井, 2023）の計量テキスト分析から，通常では困難な相手との通常では困難な性的行為の実現のために，相手を心身共に支配することを目的として，催眠を悪用する描写に加えて，催眠を用いれば本来は不可能な行為まで実現可能であるかのように誇張する描写に溢れていることが分かっている。このように，催眠に対する誤解や偏見に基づく多数のエンタテインメント作品が流通しているせいで，それを消費する一般の人々の間にも，否定的な催眠イメージが蔓延していると考えられる。

実際に，大学生を対象に催眠イメージや催眠観を尋ねた複数の研究において，「心理療法に用いる」や「トラウマを解消する」といった治療的なイメージを有する者は少数派であり，むしろ「ショー催眠で用いる」や「バラエティ番組で面白さを追求するために催眠を使用す

る」といった娯楽的なイメージや，催眠で「人を騙して思い通りに動かす」や「洗脳されてしまう」といった他者を操ったり他者から操られたりするという操作的なイメージを有する者のほうが圧倒的に多いことが示されている（福井他, 2022a, b; 小泉, 2001; Nakatani et al., 2022; 中谷他, 2022a-g, 2023a）。こうした研究からも，催眠は，世間一般において概していかがわしいものとして捉えられていることは疑いようのない事実であると言える。

このような否定的イメージが伴う催眠を，心身の症状の治療やケアを目的に用いる心理の専門家の呼称が，「催眠療法家」である。たとえ治療やケアが目的とはいえ，上述したようないかがわしさがつきまとう技法を用いる催眠療法家に対して，世間から猜疑の目が向けられることは想像に難くない。催眠療法家は，対人援助の専門家に属することから，本来であれば，その総称である「心理療法家」と同程度の信頼性を有してしかるべきであるが，否定的イメージがつきまとう「催眠」という言葉を冠するせいで，心理療法家よりも社会的信頼性が低いと推測される。

催眠療法家が，治療やケアの目的で催眠を用いる対人援助の専門家を指すのに対して，「催眠術師」は，娯楽目的で催眠を用いるエンターテイナーの呼称である。両者はいずれも催眠を用いる職業であるにもかかわらず，その使途が明確に異なっていることから，一般の人々にも区別して捉えられているようである（小泉, 2001）。催眠術師は，面白さを追求するがゆえに，被催眠者を操っているかのように振る舞い，被催眠者に滑稽な行為をさせるなどして笑い者にする演出を多用する（例，えなこ×さらば森田の猫しか勝たん, 2022）。そのため，催眠術師によるショーの観覧者や視聴者は，催眠を娯楽として楽しむかもしれないが，催眠術師を信頼に足る専門家であるとは見なさないだろう。従って，催眠術師に対する社会的信頼性は，催眠療法家に対するそれよりも低いと推測される。

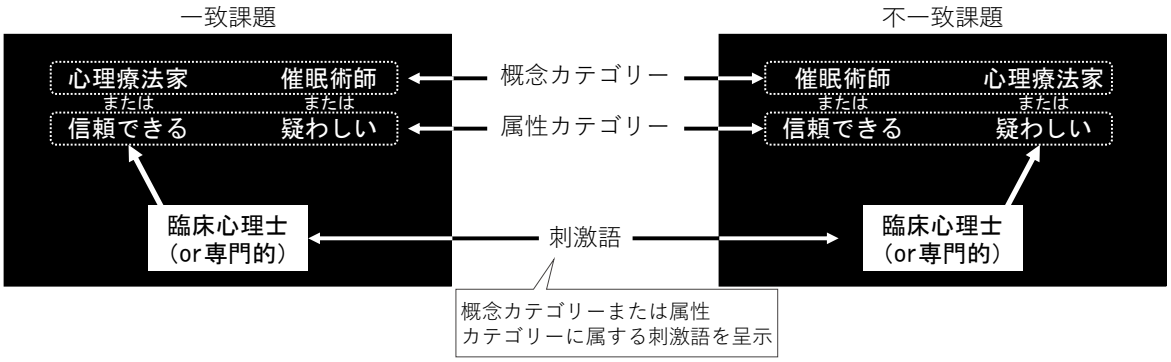
以上のことから，催眠療法家に対する社会的信頼性は，心理の専門家で，心理療法をケアに用いる心理療法家に対するそれよりも低いのに対して，単なるエンターテイナーで，催眠を娯楽目的で用いる催眠術師に対するそれよりは高いと予想される。一般的に，クライエントは信頼できない専門家に相談しようとは思わないため，催眠療法家の支援を受けることを，そもそも選択肢から除外するだろう。また，ケアの担い手である心理師も，最初から催眠の活用など眼中にないため，自ら学ぼうともしなければ，患者やクライエントに提供しようとも思わないであろう。その結果，クライエントは催眠療法という有益な治療を受ける機会をみすみす逸することになる。こうした不利益を防ぐには，催眠療法家に対する社会的信頼性の実態を把握し，信頼性に乏しいことが分かった場合には，その改善策を講じなければならない。しかしながら，実際にこれら3つの専門家に対する社会的信頼性を比較した研究は，筆者らの知る限り存在しない。そのため，本研究では，催眠療法家と心理療法家，催眠術師それぞれに対する社会的信頼性を比較した。

ところで，自記式尺度で測定された意識的な水準では，催眠に対して肯定的な態度を示すにもかかわらず，後述するImplicit Association Test（以下，IAT）で測定された無意識的（以下，非意識的[注1]）な水準では，否定的な態度を有する人々が大多数であるという報告がある（福井・大浦, 2016; 大浦・松尾・福井, 2018）。このように，催眠に対する評価的態度

は，意識的・非意識的側面で大きく乖離していることから，催眠療法家に対する社会的信頼性も同様に，意識的・非意識的側面で乖離している可能性がある。そこで，両者を区別して測定し，各水準でそれぞれの社会的信頼性を比較する必要がある。本研究では，各専門家に対する社会的信頼性の意識的側面を自記式のSemantic Differential法（Osgood, 1952）で，非意識的側面をIATでそれぞれ測定した。

IATは社会心理学領域で，非意識的な人種差別的態度を測定するために，Greenwald et al.（2003）によって開発された手法であり，現在では心理学の様々な領域において広く活用されるに至った（例，自尊感情：藤井・澤田, 2014，シャイネス：相川・藤井, 2011）。IATでは，特定の概念や属性に関する刺激語の分類課題における反応時間の差を基に，その概念に対する非意識的態度を測定することが可能である。例として，本研究で用いたIATの実施画面をFigure 1に示した。左側の一致課題において，「臨床心理士」という刺激語は，概念カテゴリーの「心理療法家」に対応するため，左に分類しなければならない。「心理療法家」と「信頼できる」の連合が強い場合，つまり，「心理療法家は信頼できる」と非意識的水準で思っている者にとって，「臨床心理士」を左に分類することは容易である。しかしながら，右側の不一致課題（概念カテゴリーが左右で入れ替わっていることに注意）においては，「臨床心理士」という刺激語を右に分類するよう求められる。「心理療法家」と「信頼できる」の連合が強い者の場合，不一致課題では「心理療法家」と「疑わしい」が並記されているせいで，分類するのに要する時間が，一致課題（「心理療法家」と「信頼できる」が並記）で分類する際よりもわずかに遅れる。この時間差により，ある概念に対する評価的態度を測定することが可能であると考えるのである。Figure 1にも示したように，刺激語には属性カテゴリーに属するもの（図の例では「専門的」）も存在する（詳細は，Table 2参照）が，その原理は同様である。

Figure 1　IATの実施画面の例



IATによる測定の信頼性や妥当性は，他の非意識的態度の測定法に比して高いことが分かっている（潮村, 2016参照）。また，IATを用いた測定では，回答者が自身の反応を意識的に歪曲することが困難であることが最大のメリットである。そこで，本研究では，心理師に対する社会的信頼性を医師や教師を対概念として測定するIAT（Fukui & Hori, 2021）を改変して，催眠療法家と心理療法家，催眠術師から総当たりで2つの組み合わせを対概念とし，各専門家に対する非意識的信頼性を測定した。Fukui & Hori（2021）によるIATでは，一定程

度の測定の信頼性と妥当性が確認されていることから，本研究における3つの専門家に対する非意識的信頼性の測定にも，同様の手法が適用可能であると判断した。

以上のことから，本研究は，催眠療法家に対する意識的・非意識的信頼性を心理療法家と催眠術師に対するそれと比較することを目的とした。仮説は，「催眠療法家に対する意識的・非意識的信頼性は，心理療法家に対するそれよりも低いのに対して，催眠術師に対するそれよりは高い」であった。

方法

協力者

大学生47名（女性33名，男性11名，不明3名）の協力を得た。平均年齢は18.95歳（*SD* = 0.58）であった。

質問票の構成

各専門家に対する意識的信頼性を，福井（2021）が作成した心理専門家についてのイメージを尋ねる39の形容詞対（「信頼性」，「親しみやすさ」，「理知性」，「能動性」の4つの下位因子）のうち，「信頼性」因子の8項目を用いて測定した。用いられた形容詞対をTable 1に示した。選択肢は1から7までの7件法であり，得点が高いほど，各専門家に対する意識的信頼性が高いことを示す。なお，質問票には，本稿では使用されない尺度も含まれていた。

Table 1　各専門家に対する意識的信頼性を測定する形容詞対

疑わしい	―	信頼できる
心配になる	―	安心できる
劣っている	―	優れている
役立たずな	―	役に立つ
頼りない	―	頼もしい
嫌いな	―	好きな
嫌われる	―	好かれる
無責任な	―	責任感の強い

IATの構成

上述したように，心理師に対する非意識的信頼性を測定するために開発されたIAT（Fukui & Hori, 2021）を元に，催眠療法家と催眠術師，心理療法家に対する非意識的信頼性を測定する3つのIAT（組み合わせはそれぞれ，「心理療法家－催眠療法家」，「催眠療法家－催眠術師」，「催眠術師－心理療法家」）を作成した。算出された*D*値を各専門家に対する非意識的信頼性得点とした。

*D*値は，－2.0から＋2.0の範囲を取り，各対概念の前者に対する非意識的信頼性が後者に対するそれよりも高い場合に正の値をとる。例えば，「催眠術師－心理療法家」IATであれば，*D*値が正の値をとれば催眠術師の方が心理療法家より，負の値をとれば心理療法家のほうが催眠術師より，非意識的信頼性が高いことをそれぞれ示す。一方，0.0に近いほど２つの専門家に対する非意識的信頼性が同程度であり，優劣がないことを示す。

Table 2にIATで使用した概念カテゴリーと属性カテゴリーのそれぞれに属する刺激語を示した。

Table 2　使用した概念カテゴリーと属性カテゴリーの刺激語

	概念カテゴリー			属性カテゴリー	
	心理療法家	催眠療法家	催眠術師	信頼できる	疑わしい
刺激語	心理療法士	催眠療法士	催眠術士	専門的	素人的
	心理療法家	催眠療法家	催眠術者	安心できる	心配になる
	サイコセラピスト	ヒプノセラピスト	ヒプノティスト	優れている	劣っている
	公認心理士	認定催眠士	舞台催眠家	役に立つ	役立たず
	臨床心理士	催眠技能士	ショー催眠家	頼もしい	頼りない

手続き

3つのIATを実施してから，質問票への回答を求めた。その際，3つのIAT自体と，各IATにおける一致課題・不一致課題の実施順序，3つの専門家に対する意識的信頼性を測定する尺度の実施順序はカウンターバランスをとった。

倫理的配慮

実験は，第2，3著者が担当する心理学実験の授業で実施された。得られたデータの利用目的と，匿名性や同意の任意性，同意の有無による利益・不利益の非生起性について説明し，理解と同意が得られた者のデータのみを使用した。

結果

各専門家に対する意識的・非意識的信頼性得点をTable 3に示した。意識的信頼性得点は，心理療法家＞催眠療法家＞催眠術師の順に高い傾向が見られた。それに対して，非意識的信頼性得点は，「心理療法家－催眠療法家」IATと「催眠療法家－催眠術師」IAT では正，「催眠術師－心理療法家」IATでは負の値を示し，中立を示す0.0に近い組み合わせは皆無であった。

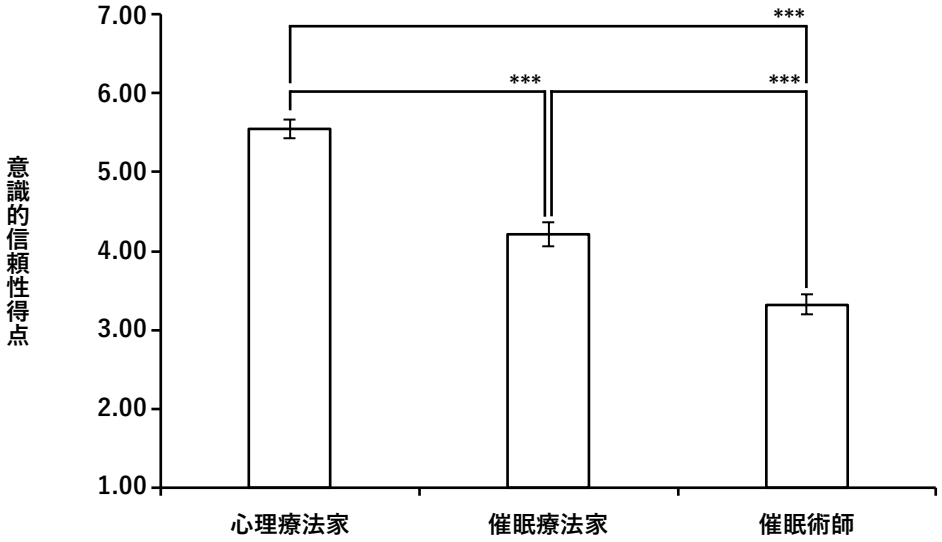
Table 3　各専門家に対する意識的・非意識的信頼性得点

	意識的信頼性（1.0～7.0）			非意識的信頼性（－2.0～＋2.0）		
	心理療法家	催眠療法家	催眠術師	心理療法家－催眠療法家	催眠療法家－催眠術師	催眠術師－心理療法家
M	5.54	4.21	3.32	0.41	0.39	－0.47
SD	(0.83)	(1.02)	(0.89)	(0.37)	(0.32)	(0.34)

まず，各専門家に対する意識的信頼性得点の理論的中央値からの偏差を検討するために，7件法の中央値である4.0を基準値とする1サンプルの t 検定を実施した結果，心理療法家では基準値よりも有意に高く（t (46) = 12.78, p <.001），催眠術師では有意に低かった（t (46) = 5.20, p <.001）のに対して，催眠療法家では基準値との有意差が得られなかった（t (46) = 1.39, *n.s.*）。このことから，心理療法家に対する意識的信頼性は肯定的，催眠療法家に対するそれは中立的，催眠術師に対するそれは否定的であることが分かった。

次に，各専門家に対する意識的信頼性を比較するために，専門家の種別（心理療法家，催眠療法家，催眠術師）を要因とした繰り返しのある一要因分散分析を行った結果，主効果が有意であった（F (2, 92) = 87.51, p <.001, η_p^2=.655）。多重比較（Bonferroni法）の結果，0.1%水準で，心理療法家＞催眠療法家＞催眠術師の順に意識的信頼性が有意に高いことが分かった。Figure 2に各専門家に対する意識的信頼性得点を図示した。

Figure 2　意識的信頼性得点についての分散分析の結果



注1）***p<.001　　注2）エラーバーは標準誤差

次に，各専門家に対する非意識的信頼性得点の理論的中央値からの偏差を検討するために，0.0を基準値とする1サンプルの t 検定を実施した結果，いずれの組み合わせにおいても中立ではないことが分かった（心理療法家－催眠療法家：t (46) = 7.61, p <.001，催眠療法家－催眠術師：t (46) = 8.53, p <.001，催眠術師－心理療法家：t (46) =－9.55, p <.001）。このことから，各専門家に対する非意識的信頼性は，どの組み合わせにおいても同等ではなく，対概念となった各専門家に対する非意識的信頼性とは明確な差（心理療法家＞催眠療法家，催眠療法家＞催眠術師，催眠術師＜心理療法家）があることが分かった。

続いて，各専門家に対する非意識的信頼性を比較するために，3つのIATから得られたD値を2つずつ取り出して，各対概念のうち前者に置かれる専門家を揃えた。このとき，各対概念のうち前者が2つのIATで揃っていない場合，一方のD値の正負の符号を反転させた。例えば，「心理療法家－催眠療法家」IATと「催眠術師－心理療法家」IATで，前者を心理療法家に揃えるために，後者の「催眠術師－心理療法家」IATから得られたD値の正負の符号を反転させて，「心理療法家－催眠術師」の非意識的信頼性を表すように操作した。そして，前者を揃えた2つのIATのD値の平均値を算出することで，他の2つの専門家と比した場合の各専門家の非意識的信頼性の値とした。例えば，「心理療法家－催眠療法家」IATと「心理療法家－催眠術師」IATから得られた各D値の平均値を算出することで，心理療法家に対する非意識的信頼性の得点とした。

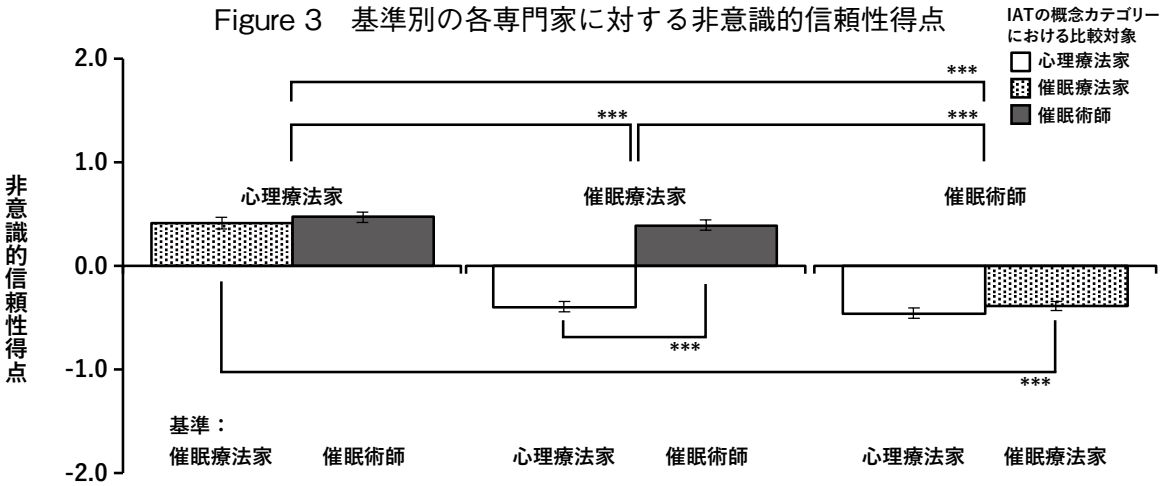
その上で，各専門家に対する非意識的信頼性を比較するために，専門家の種別（心理療法

家，催眠療法家，催眠術師）を要因とした繰り返しのある一要因分散分析を行った結果，主効果が有意であった（F (2, 92) = 87.88, p <.001, η_p^2=.656）。多重比較（Bonferroni法）の結果，0.1%水準で，心理療法家（M = 0.44, SD = 0.30）＞催眠療法家（M = −0.01, SD = 0.21）＞催眠術師（M = −0.43, SD = 0.26）の順に非意識的信頼性が有意に高いことが分かった。

さらに，平均値を算出する前の各専門家に対する非意識的信頼性を比較するため，前者を揃えた2つのIATのD値間で対応のある t 検定を3回繰り返した。その結果，心理療法家と比した催眠療法家に対する非意識的信頼性は，催眠術師と比したそれよりも有意に低かった（t (46) = 10.09, p <.001）。一方，その他の2つの組み合わせにおいて，他の2つの専門家と比した心理療法家と催眠術師に対する非意識的信頼性においては，いずれも有意差が得られなかった（心理療法家：t (46) = 1.16, *n.s.*，催眠術師：t (46) = 1.28, *n.s.*）。このことから，催眠療法家に対する非意識的信頼性は，心理療法家に対するそれよりも低いのに対して，催眠術師に対するそれよりも高いこと，心理療法家に対する非意識的信頼性は，催眠療法家と催眠術師に比して同程度に高いのに対して，催眠術師に対する非意識的信頼性は心理療法家と催眠療法家に比して同程度に低いことがそれぞれ分かった。

各対概念となる専門家の前者を揃えて基準とした場合の非意識的信頼性得点をFigure 3に図示した。

Figure 3　基準別の各専門家に対する非意識的信頼性得点



注1）***p <.001　　注2）エラーバーは標準誤差
注3）原点より上は分散分析の多重比較の結果を，下は t 検定の結果を示す
注4）t 検定における2つの有意差は，正負の符号を入れ替えているだけなので，実際には同じ組み合わせを示す

考察

本研究の目的は，催眠療法家に対する意識的・非意識的信頼性を催眠術師や心理療法家に対するそれと比較することであった。以下に，仮説「催眠療法家に対する意識的・非意識的信頼性は，心理療法家に対するそれよりも低いのに対して，催眠術師に対するそれよりは高い」の検証結果について考察する。

まず，各専門家に対する意識的信頼性は，心理療法家（肯定的）＞催眠療法家（中立的）＞催眠術師（否定的）の順に高いことが分かった。意識的信頼性については，仮説が完全に支持されたと言える。上述した通り，催眠療法家に対する社会的信頼性は，「催眠」という言

葉自体が持つ否定的イメージのせいで心理療法家に対するそれよりも低いが，娯楽目的で催眠を悪用する催眠術師に対するそれよりは高くなったと考えられる。

次に，各専門家に対する非意識的信頼性についても，分散分析からは仮説を概ね支持する結果が得られた。また，心理療法家と催眠術師に比した催眠療法家に対する非意識的信頼性を比較した t 検定の結果からも，仮説と概ね一致する結果が得られたと言える。このことから，催眠療法家に対する社会的信頼性の意識面と非意識面で乖離はほとんど見られないことが分かった。

しかしながら，各専門家への非意識的信頼性を測定するIATの全てにおいて，絶対値で同程度のD値が得られたことは，意識的信頼性では明確に3つの専門家間で有意差が得られたという事実とやや矛盾している。もし，仮説の通りであれば，「催眠術師－心理療法家」IATで得られるD値の絶対値は，他の2つのIATから得られるそれよりも大きいはずである。この結果が，対概念を必要とするIATを用いたという測定の方法論上の問題に起因する可能性もあるが，本研究からはその根拠について明確に結論づけることは困難である。非意識的な水準では，いずれが肯定的（または否定的）なのかという判断が，意識的水準よりも，単に大雑把なのかもしれない。個人の行為の選択には，複数の判断対象が肯定的か否定的かさえ判断できれば，その程度にまで優劣をつける必要性がない。実際に，非意識的判断が何らかの行為を活性化することを想定すると，肯定的か否定的かが分かれば，個人はその程度にかかわりなく，接近または回避行動を選択可能である。本研究で用いた概念を例に用いると，何らかのケアを求める人々は，心理療法家が信頼に足ると判断すれば，催眠療法家と催眠術師の違いなど気にかけるよしもないのが道理である。

こうした未解決の問題が残ったとはいえ，本研究から，催眠療法家に対する社会的信頼性は，心理療法家に対するそれよりも低いのに対して，催眠術師に対するそれよりは高いこと，その傾向は社会的信頼性の意識面と非意識面でほとんど変わりないことが分かった。恐らく，「催眠療法家」という語に含まれる「催眠」という語は否定的なイメージを有するものの，「療法家」という語は肯定的なイメージを有するため，その効果が相殺されて中立的と判断されたのであろう。とはいえ，「催眠療法家」が一般の人々から無味無臭で無害な中立的イメージを抱かれていると決めてかかるのは早計である。このことは，IATによる測定で，心理療法家を比較対象とした場合に，催眠療法家と催眠術師は同程度に不信感を抱かれているという結果が得られたことからも明白であろう。催眠を用いる心理の専門家は，クライエントから矛盾し合うイメージを向けられていることに留意し，先に誤解や偏見を解いたり否定的なイメージを修正したりして，これらに基づく否定的な態度を和らげた上で，催眠の臨床実践に取りかかるほうが得策であると思われる。

本研究から，催眠療法家に対する社会的信頼性を回復するには，「療法家」という語が肯定的なイメージを有することに鑑みると，催眠についての正しい情報を広く周知することで，「催眠」自体についてのイメージを否定的から中立的または肯定的に変容することが先決であろう。幸い，先行研究（中谷他, 2022）から，短時間の心理教育によって，催眠に対する態度を改善可能であることが分かっている。臨床実践における個別の心理教育とは別に，一般の

人々に向けて心理教育を目的とした公的な情報を発信するという手段も，催眠に対する態度を改善するのに有効かもしれない。

限界と課題

本研究では，意識的信頼性の測定時とは異なり，催眠療法家に対する非意識的信頼性を心理療法家と催眠術師に対するそれと一対一で対比することにより測定した。これは，標準的なIATが対概念を必要とするため，方法論上やむを得ない事情ではあったが，近年では対概念を必要としないシングル・ターゲットIATも開発されている（Bluemke & Friese, 2008）。今後は，これを用いて，意識的信頼性と測定の条件を近づけた際の結果の再現性を確認する必要があるだろう。

また，本研究では，男性の度数が低かったため，性別を要因に含めることができなかった。いくつかの先行研究で，催眠についてのイメージ（福井, 2012; 福井他, 2022b; 中谷他, 2020, 2022b, c, e, g）や，それと催眠に対する態度の関係（中谷他, 2021; 清水・小玉, 2001）には性差があることが示唆されていることから，今後は性別による違いについても検討する必要があるだろう。

注１）当該分野の慣例に従い，本稿では「無意識」を「非意識」と表記したが，両者の意味に本質的な違いはない。

附記

本稿は，日本心理学会第87回大会における研究発表（中谷他, 2023b）を論文化したものである。

引用文献

相川 充・藤井 勉（2011）．潜在連合テスト (IAT) を用いた潜在的シャイネス測定の試み　心理学研究, *82*(1), 41-48. https://doi.org/10.4992/jjpsy.82.41

Bluemke, M., & Friese, M. (2008). Reliability and validity of the Single-Target IAT (ST-IAT): assessing automatic affect towards multiple attitude objects. *European journal of social psychology, 38*(6), 977-997. https://doi.org/10.1002/ejsp.487

えなこ×さらば森田の猫しか勝たん（2022）．女子たちを猫にしちゃおう！猫の日SP　大阪テレビ　2月22日

福井 義一（2012）．催眠への態度や催眠状態への期待と共感性の関連について―アナログ研究―　日本催眠医学心理学会第58 回大会発表論文集, 36.

福井 義一（2021）．大学生における心理専門家に対するイメージと援助要請意図の関連―悩みの深刻度や心理専門家に対する事前知識を統制して―　日本心理臨床学会第40回大会発表論文集, 206.

Fukui, Y. & Hori, T. (2021). Implicit Association Test measuring non-conscious aspects of psychologists' credibility and its reliability and validity. *The 14th Biennial Conference of the Asian Association of Social Psychology Abstract Book*, 229.

福井 義一・中谷 智美・今井田 貴裕・磯和 壮太朗・堀 孝司・大浦 真一（2022a）．わが国における催眠についての信念やイメージの探索的研究 その2―催眠状態期待のテキストマイニング分析から―　第65回日本心身医学会近畿地方会プログラム集, 10.

福井 義一・中谷 智美・今井田 貴裕・磯和 壮太朗・堀 孝司・大浦 真一（2022b）．催眠についてのイメージと催眠態度の対応関係の性差 その2―催眠状態期待の自由記述のテキスト・マイニングから― 日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第23回大会プログラム・抄録集, 28.

福井 義一・大浦 真一（2016）．催眠に対する意識的（顕在的）態度と非意識的（潜在的）態度の間の乖離―催眠シングル・ターゲット潜在連合テストの開発とその信頼性・妥当性の検討― 臨床催眠学, *17*, 16-29.

藤井 勉・澤田 匡人（2014）．自尊感情とシャーデンフロイデ―潜在連合テストを用いた関連性の検討― 感情心理学研究, *21*(3), 114-123. https://doi.org/10.4092/jsre.21.114

Greenwald, A. G., Nosek, B. A., & Banaji, M. R. (2003). Understanding and using the implicit association test: I. An improved scoring algorithm. *Journal of personality and social psychology, 85*(2), 197-216. https://doi.org/216.10.1037/0022-3514.85.2.197

一柳 廣孝（2006）．催眠術の日本近代 青弓社

小泉 晋一（2001）．大学生の催眠観に関する調査 催眠学研究, *46*, 40-46.

心野 足助（2022）．恋愛は催眠術で口説く！―科学で証明された恋愛コミュニケーションテクニック― 石黒書籍

Milling, L. S., Valentine, K. E., LoStimolo, L. M., Nett, A. M., & McCarley, H. S. (2021). Hypnosis and the Alleviation of Clinical Pain: A Comprehensive Meta-Analysis. *International Journal of Clinical and Experimental Hypnosis, 69*(3), 297-322. https://doi.org/10.1080/00207144.2021.1920330

Milling, L. S., Valentine, K. E., McCarley, H. S., & LoStimolo, L. M. (2019). A Meta-Analysis of Hypnotic Interventions for Depression Symptoms: High Hopes for Hypnosis? *American Journal of Clinical Hypnosis, 61*(3), 227-243. https://doi.org/10.1080/00029157.2018.1489777

中谷 智美・福井 義一（2022）．催眠でそんなことができると本気で思ってるんですか？―「催眠」を含むAV動画タイトルをテキスト・マイニングで斬る― 関西心理学会第133回大会発表論文集, 研究発表201PM-7.

中谷 智美・福井 義一（2023）．催眠でそんなことができると本気で思ってるんですか？ その2―いわゆる「催眠」モノのアダルト・ビデオ作品の説明文をテキストマイニングで斬る― 日本応用心理学会第89回大会発表論文集, 76.

中谷 智美・福井 義一・今井田 貴裕・磯和 壮太朗・堀 孝司・大浦 真一（2022a）．わが国における催眠についての信念やイメージの探索的研究 その1―催眠の使用場面や目的についてのテキストマイニング分析から― 第65回日本心身医学会近畿地方会プログラム集, 9.

中谷 智美・福井 義一・今井田 貴裕・磯和 壮太朗・堀 孝司・大浦 真一（2022b）．わが国における催眠についての信念やイメージの探索的研究 その3―利用可能性のテキストマイニング分析― 第63回日本心身医学会総会ならびに学術講演会プログラム・抄録集, 195.

中谷 智美・福井 義一・今井田 貴裕・磯和 壮太朗・堀 孝司・大浦 真一（2022c）．催眠についてのイメージと催眠態度の対応関係の性差 その1―催眠の使用場面や目的についての自由記述のテキスト・マイニングから― 日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第23回大会 大会プログラム・抄録集, 27.

中谷 智美・福井 義一・今井田 貴裕・磯和 壮太朗・堀 孝司・大浦 真一（2022d）．わが国における催眠についての信念やイメージの探索的研究 その4―自身が催眠者である場合の使用目的や利用可能性のテキスト・マイニング― 日本心理学会第86回大会抄録集, 3EV-015-PD.

中谷 智美・福井 義一・今井田 貴裕・磯和 壮太朗・堀 孝司・大浦 真一（2022e）．催眠についてのイメージと催眠態度の対応関係の性差 その3―一般的な催眠の利用可能性のテキスト・マイニングから― 日本応用心理学会第88回大会抄録・論文集原稿, 2B08.

中谷 智美・福井 義一・今井田 貴裕・磯和 壮太朗・堀 孝司・大浦 真一（2022f）．日本における催眠についてのイメージの再検討 その3―一般的な催眠の利用可能性についての自由記述のテキスト・マイニングから― 第11回日本情動学会第1回看護ケアサイエンス学会合同集会抄録集, P-09.

中谷 智美・福井 義一・今井田 貴裕・磯和 壮太朗・堀 孝司・大浦 真一（2022g）．催眠についてのイメージと催眠態度の対応関係の性差 その4―自身が催眠者である場合の使用目的や利用可能性のテキスト・マイニング― 第26回日本統合医療学会学術大会プログラム・抄録集, 192.

中谷 智美・福井 義一・今井田 貴裕・磯和 壮太朗・堀 孝司・大浦 真一（2023a）．日本における催眠についてのイメージの再検討 その4―自身が催眠者である場合の使用目的や利用可能性のテキスト・マイニング― 第66回日本心身医学会近畿地方会プログラム集, 36.

中谷 智美・福井 義一・今井田 貴裕・磯和 壮太朗・堀 孝司・大浦 真一（2023b）．催眠療法家に対する顕在的・潜在的信頼性―催眠術師や心理療法家との比較から―　日本心理学会第87回大会発表論文集, 2B-043-PD.

Nakatani, T., Fukui, Y., Imaida, T., Isowa, S., Hori, T., & Oura, S. (2022). Re-examining images of hypnosis in Japan Part 1: Text mining of responses to open-ended questions on typical uses and/or purposes of hypnosis. 2022年台灣心理學年會大會手冊, 347.

中谷 智美・福井 義一・大浦 真一・今井田 貴裕（2021）．催眠状態に対する期待を測定する尺度の妥当性―因子的妥当性と収束的・弁別的妥当性の検討―　甲南大學紀要文学編, 171, 253-267.

中谷 智美・福井 義一・大浦 真一・今井田 貴裕（2022）．催眠状態期待の修正を意図した心理教育による意識的・非意識的催眠態度の変化―大学生を対象とした予備的研究―　甲南大學紀要文学編, 172, 151-171.

Osgood, C. E. (1952). The nature and measurement of meaning. *Psychological bulletin, 49*(3), 197-237.

大浦 真一・松尾 和弥・福井 義一（2018）．紙筆版催眠シングル・ターゲット潜在連合テストの開発―催眠への意識的・非意識的態度と催眠に対するイメージの関連―　臨床催眠学, 19, 40-50.

ポケットモンスター（2000）．スリーパーとポケモンがえり!?　テレビ東京　3月19日

Rotaru, T. S., & Rusu, A. (2016). A Meta-Analysis for the Efficacy of Hypnotherapy in Alleviating PTSD Symptoms. *International Journal of Clinical and Experimental Hypnosis, 64*(1), 116-136. https://doi.org/10.1080/00207144.2015.1099406

Schaefert, R., Klose, P., Moser, G., & Häuser, W. (2014). Efficacy, tolerability, and safety of hypnosis in adult irritable bowel syndrome: systematic review and meta-analysis. *Psychosomatic medicine, 76*(5), 389-398. https://doi.org/10.1097/PSY.0000000000000039

清水 貴裕・小玉 正博（2001）．催眠状態イメージと催眠態度との関連　筑波大学心理学研究，23, 219-227.

潮村 公弘（2016）．自分の中の隠された心―非意識的態度の社会心理学―　セレクション社会心理学29巻　サイエンス社

中谷　智美	甲南大学大学院人文科学研究科	博士後期課程	（臨床心理学）
福井　義一	甲南大学文学部	教授	（臨床心理学）
今井田　貴裕	人間環境大学心理学部	講師	（臨床心理学）
堀　孝司	甲南大学大学院人文科学研究科	博士後期課程	（学校心理学）
磯和　壮太朗	名古屋芸術大学教育学部	講師	（教育心理学）
大浦　真一	東海学院大学人間関係学部	准教授	（臨床心理学）